



Title	IDUN19号 ー北欧研究ー 刊行にあたって
Author(s)	
Citation	IDUN ー北欧研究ー. 2011, 19
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/95543
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

IDUN 19 号 — 北欧研究 — 刊行にあたって

IDUN 18 号に引き続き、19 号を刊行することになりました。今回も北欧に関する幅広い視点 — 言語、文学、社会、歴史 — からの論考を収録することができました。日本においては数少ない北欧研究の学術雑誌として、今後もますます学術的価値の高い貢献を続けていきたいと考えています。

2007 年秋の大阪外国語大学・大阪大学の統合後は、組織の変更にともない、私たちの研究・教育上において混乱も少々生じておりましたが、現在は移行期を経て、少しずつ新たなシステムが定着しつつあります。学部教育について言えば、2011 年 4 月に大阪大学外国語学部の第 1 期生が 4 年生となり、新課程が完成をみることになります。

さてここで、この 2 年間の研究室の様子などを簡単に時系列でご報告しておきたいと思います。

■ 2009 年 4 月 1 日

〈デンマーク語専攻・外国人特任教員赴任〉

前任の Bente Høiland 先生に代わって、コペンハーゲン大学出身の Liva Hyttel-Sørensen 先生が特任講師として着任されました。先生はお若いながらも 2008 年のコペンハーゲン大学の懸賞論文で金メダルを受賞された大変優秀な研究者です。このコペンハーゲン大学の懸賞論文制度は、約 250 年前から実施されている伝統あるもので、これまでにたとえば Louis Hjelmslev, Eli Fischer-Jørgensen, Jørgen Rischel, Jens Elmegård Rasmussen などの数々の著名な研究者が歴代の受賞者に名を連ねています。このような素晴らしい賞を受賞した新進気鋭の研究者をデンマーク語専攻の教員として迎えることができたのは大変嬉しいことです。

■ 2010 年 3 月

〈高度外国語教育全国配信プログラムの「デンマーク語」、「スウェーデン語」のコンテンツ完成〉

これは、世界言語研究センターのプロジェクトで、世界の多様な言語に関する広範な言語資源を集積し、斬新なマルチメディア言語教材コンテンツを作成するとともに、これらのコンテンツを独自の多言語対応言語独習システムを基に運用し、国立情報学研究所と協力しつつ、全国的な規模での実用配信を実現することを目的としたものです。その言語コンテンツ作成にあたり、デンマーク語専攻とスウェーデン語専攻研究室専任スタッフおよび外国人教員が一丸となって一年間

取り組み, ようやく完成に至りました. デンマーク語専攻では大辺理恵先生, Liva Hyttel-Sørensen 先生, 学部生 3 年畔柳まりえさん, 内藤久美子さん, 山鹿淳子さん, 吉田成志さんには, コンテンツの主要部分の製作に尽力頂き, 製作補助として学部生 3 年新谷知佳さん, 中井靖子さん, 服部友美さん, 渡邊梨沙さんそして学部生 4 年奥村佳子さん, 遠山桃子さん, 福本菜帆さんにご協力を頂きました. スウェーデン語専攻では當野能之先生を中心に, Johanna Karlsson 先生と本学大学院言語文化研究科言語社会専攻博士前期課程在籍の梅谷綾さん(スウェーデン語専攻)が脚本作成とスキット出演を担当してくださり, 学部生(昨年度卒業)の玉田愛さん(音楽も担当), 大川内絵美さん, 東田直子さんたちは地道な編集作業に携わってくれました. 全員が一致協力してくれた賜物です. デンマーク語・スウェーデン語研究室一同, 皆様に深く感謝申し上げます. 全員が心血を注いで作成したもので, しっかりした出来栄えと確信しております. これらのコンテンツが今後日本で広く利用され, 言語能力向上の一助となることを願っています.

■ 2010 年 3 月 31 日

〈スウェーデン語専攻・外国人招聘教員離任〉

3 年間の任期を満了して Johanna Karlsson 先生がスウェーデンに帰国されました. 明るく教育熱心な Karlsson 先生が帰国されることは, 学生たちにとっても私たちにとっても非常に寂しいことでした. ここ数年間, デンマーク語専攻とスウェーデン語専攻のお二人の外国人の先生方が毎年 12 月中旬に専攻学生たちに本場北欧のルシーア祭とクリスマスの雰囲気味わってもらおうと, ルシーア祭を開催してくれていますが, その中で Karlsson 先生がその準備や当日の司会・運営など周到, かつ積極的に中心的な役割を果たしてくださいました. このように文化面でも学生の教育を支えてくださった Karlsson 先生に感謝の意を表すとともに, 今後 Lund 大学においても教育・研究の面でご活躍をお祈りします.

■ 2009 年 9 月, 2010 年 3 月

〈デンマーク語・スウェーデン語研究室の移転〉

大阪大学との統合により, デンマーク語・スウェーデン語研究室専任スタッフ全員が世界言語研究センターに所属することになったことは前号の IDUN でお伝えしましたが, それに伴い, 世界言語研究センターの教員の研究室は B 棟に集約されることになり, 今まで親しんできたデンマーク語スウェーデン語の研究室は共同研究室も含めて A 棟から B 棟 8 階に移転しました. これまで散在していたデンマーク語・スウェーデン語の研究室・共同研究室はすべて同一階の一廊下に位置することになりました. 引越しの作業は正直, 教員にとっては大変な負担で

したが、移転後はデンマーク語・スウェーデン語教員が一堂に会することができ、コミュニケーションのうで迅速かつ容易になり、結果的には大きなプラスになりました。

■ 2010 年 4 月 1 日

〈スウェーデン語専攻・外国人特任教員赴任〉

Einar Korpus 先生が特任准教授として着任されました。Korpus 先生は Göteborg 大学のご出身で、Jönköping 大学等でもご研鑽を積まれた後、Örebro 大学にて「広告スウェーデン語」という新たな研究領域でスウェーデンで第一号となる博士号を取得されています。長年コピーライターとしてもご活躍で、まさにスウェーデン語のプロフェッショナルといえるでしょう。親しみやすいお人柄で、教育指導にも熱心に取り組まれ、我々研究室スタッフも心強く思っています。

■ 2010 年 5 月 19 日

〈「スウェーデン留学フェア 2010 — スウェーデンを知る —」開催〉

スウェーデン大使館と世界言語研究センター共催で、大阪大学豊中キャンパスにて「スウェーデン留学フェア」が開催されました。この留学フェアは 2008 年に引き続き、大阪大学で開催されたわけですが、これは、私たちのスウェーデン語教育と研究活動を日頃から高く評価されている Stefan Noreén 大使の強いご希望によるものでした。会場には大阪大学の学生だけでなく、スウェーデン留学に関心をもつ一般の方の参加もあり、熱気に包まれ、成功裡に終えることができました。なお、「スウェーデン留学フェア」に先だって大使は鷺田清一総長を表敬訪問され、旧交を温められました。当日の様子は、『阪大 NOW』No.119. 2010 年 8 月号の 28 頁や『世界言語研究センター NEWSLETTER』No.2. 2010 年 10 月号の 15 頁にも掲載されています。

■ 2010 年 12 月 6 日

在日デンマーク大使館の Franz-Michael Skjold Mellbin 大使が箕面キャンパスを訪問される運びとなったのですが、直前に怪我をされたため、代わりに、駐日大使代理 Jesper Thomsen 公使参事官が Elgina 夫人、在大阪デンマーク王国名誉領事館吉村由紀夫領事代理とともに訪問されました。デンマーク語専攻の学生との懇談会を開催し、大使代理と学生が互いに質問をしたり、日本とデンマークの違いについて話したりと、交流を深めました。学生たちのデンマーク語能力が高いことに感心されるとともに、今後、大使館と大阪大学との結びつきをますます強くしていきたいとの希望を表明されました。当日の様子は、下記のデンマーク語専攻

のホームページに掲載されています。

■ 2011 年 3 月 31 日

〈デンマーク語専攻・外国人特任教員離任〉

教員からも学生からも慕われていた Liva Hyttel-Sørensen 先生が、2 年任期を終えて、デンマークに帰国されることになりました。Hyttel-Sørensen 先生は、学生と年齢も近く、その親しみやすさと快活さから、学生たちから人気がありました。学生の長所をほめて伸ばしていく姿勢で教育に臨まれて、学生の勉学意欲を高め、優れた教育的成果をあげてくれました。デンマークに戻られてもますますご活躍されることを期待しています。

以上のように、この 2 年間にはさまざまな出来事がありました。大阪外国語大学と大阪大学の統合から 3 年以上が過ぎましたが、これまでの期間は、我々デンマーク語・スウェーデン語研究室の、総合大学における存在意義をあらためて問いなおすプロセスでもあったと思います。どのような教育を行い、学生を育て、輩出するのか。そして、地域社会、日本社会、ひいては国際社会にどのように貢献し、存在感を発揮していくのか。近頃ますます増える事務的業務に追い立てられる日々ですが、常に大きな視点で我々の役割を問い続け、発展し続けていきたいと思っています。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。

2011 年 3 月 11 日

大阪大学 世界言語研究センター

デンマーク語・スウェーデン語研究室

デンマーク語専攻 <http://www.sfs.osaka-u.ac.jp/user/danish/top.html>

スウェーデン専攻 <http://www.sfs.osaka-u.ac.jp/user/swedish/startsidea.html>